
**三豊市 男女の働き方や生活についての
高校生アンケート調査**

－ 報告書 －

令和4年3月
香川県 三豊市

～ 目 次 ～

I 調査の概要	1
II 回答者の属性	3
1 性別構成	3
2 同居家族	3
III 調査結果	4
1 男女共同参画社会の認知状況	4
2 男女の性別差や役割分担等について	5
3 男女の平等意識	8
4 性別を意識した周囲からの発言	11
5 家庭内での役割分担	12
6 理想的な家庭内での役割分担	14
7 家での手伝い	18
8 望ましい女性の働き方	19
9 希望する進路	21
10 用語の認知状況	22
11 暴力等を受けた経験	25
12 DVに関する相談機関の認知状況	27
13 性に関する悩みの有無	29
14 性に関する悩みの内容（自由記述回答）	30
15 男女共同参画社会の実現について（自由記述回答）	31
資料 調査票	44

I 調査の概要

【調査の目的】

本調査は、「第4次三豊市男女共同参画プラン」の策定に当たり、高校生における男女共同参画に関する意識や実態、意見等を調査し、今後の計画づくりのための基礎資料とすることを目的として実施した。

【調査対象】

市内の高等学校に在学する生徒

【調査方法】

各学校を通して配布、回収※

【調査期間】

令和3年11～12月

【回収結果】

配布数 -----1,053件（うちWebが255件）

回収総数 -----904件

有効回収数 -----901件（無記入票3票を除く）

有効回収率 -----85.6%

【学校別回収状況】（問2回答結果より）

	標本数	笠田高等学校	高瀬高等学校	四国学院大学 香川西高等学校	香川高等専門学校 詫間キャンパス※
構成比(%)	100.0	25.0	26.7	34.4	13.9
件数(件)	901	225	241	310	125

※香川高等専門学校詫間キャンパスはWebによるアンケート実施

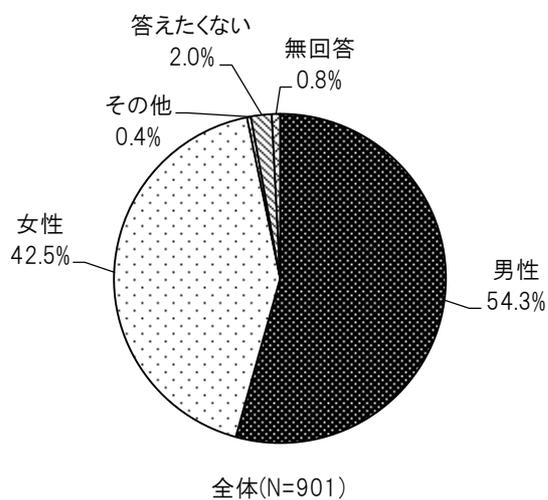
【報告書の見方について】

- (1) 集計は小数点以下第2位を四捨五入している。そのため、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- (2) 2つ以上の回答を可能とした(複数回答)質問の場合、その回答比率の合計は100%を超える場合がある。
- (3) 数表、図表、文中に示すNは、比率算出上の基数(標本数)である。全標本数を示す「全体」を「N」、「該当数」を「n」で表記している。
- (4) 図表中における性別などのクロス集計結果については、該当する属性等の設問に対する無回答者(例えば、性別でクロス集計する場合における性別の無回答者)を除いて表記しているため、属性ごとの基数の合計と全体の基数は同じにならない場合がある。
- (5) 図表中においては見やすさを考慮し、回答割合が極端に少ない数値(例:0.0%、0.1%など)は、図と干渉して見えにくい場合などに省略している場合がある。また、複数回答の図表中においては、見やすさを考慮し、回答割合の高い順に並べ替えて表記している場合がある。
- (6) 設問によっては、平成29年に実施した同調査との比較を行っている(時系列推移)。その際、図表等の表記は平成29年調査を「H29 前回調査」と略記している。
- (7) この他、個別に参照事項がある場合は、本報告書の該当箇所に適宜記載した。

Ⅱ 回答者の属性

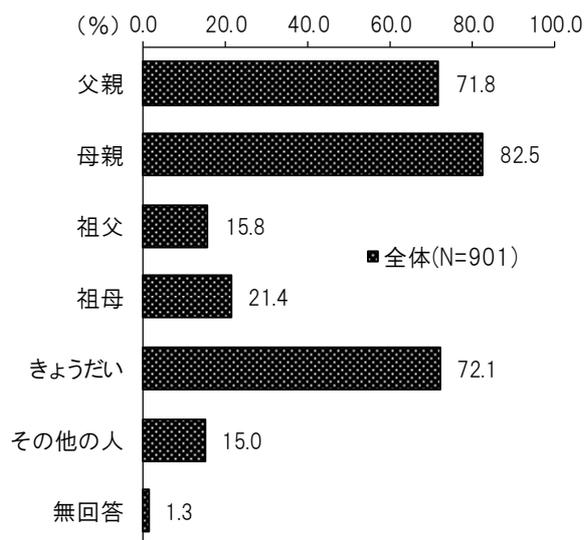
1 性別構成

回答者の性別構成比は、「男性」が 54.3%、「女性」が 42.5%と、男性の割合が女性を上回っている。



2 同居家族

同居家族については、「母親」の割合が 82.5%と最も高く、次いで「きょうだい」(72.1%)、「父親」(71.8%)、「祖母」(21.4%)、「祖父」(15.8%)の順となっている。



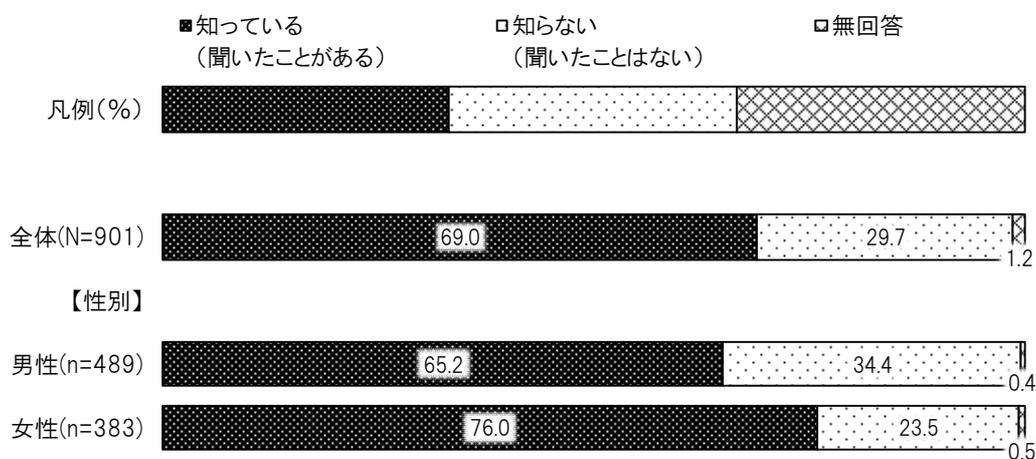
Ⅲ 調査結果

1 男女共同参画社会の認知状況

問4 あなたは「男女共同参画社会」という言葉を知っていましたか。又は聞いたことがありましたか。(○印1つ)

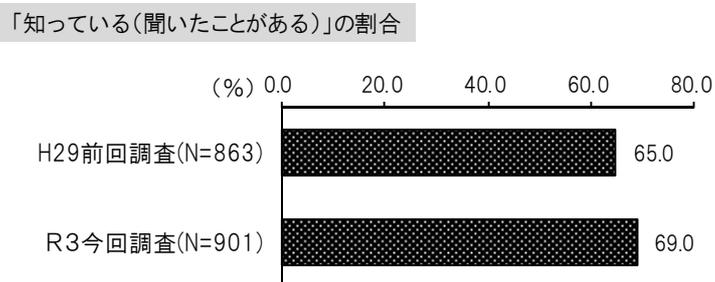
男女共同参画社会の認知状況については、「知っている(聞いたことがある)」が69.0%、「知らない(聞いたことはない)」が29.7%となっている。

性別では、女性は「知っている(聞いたことがある)」の割合が男性を大きく上回っている。



【時系列推移】

前回調査結果と比べ、「知っている(聞いたことがある)」がやや増加した。

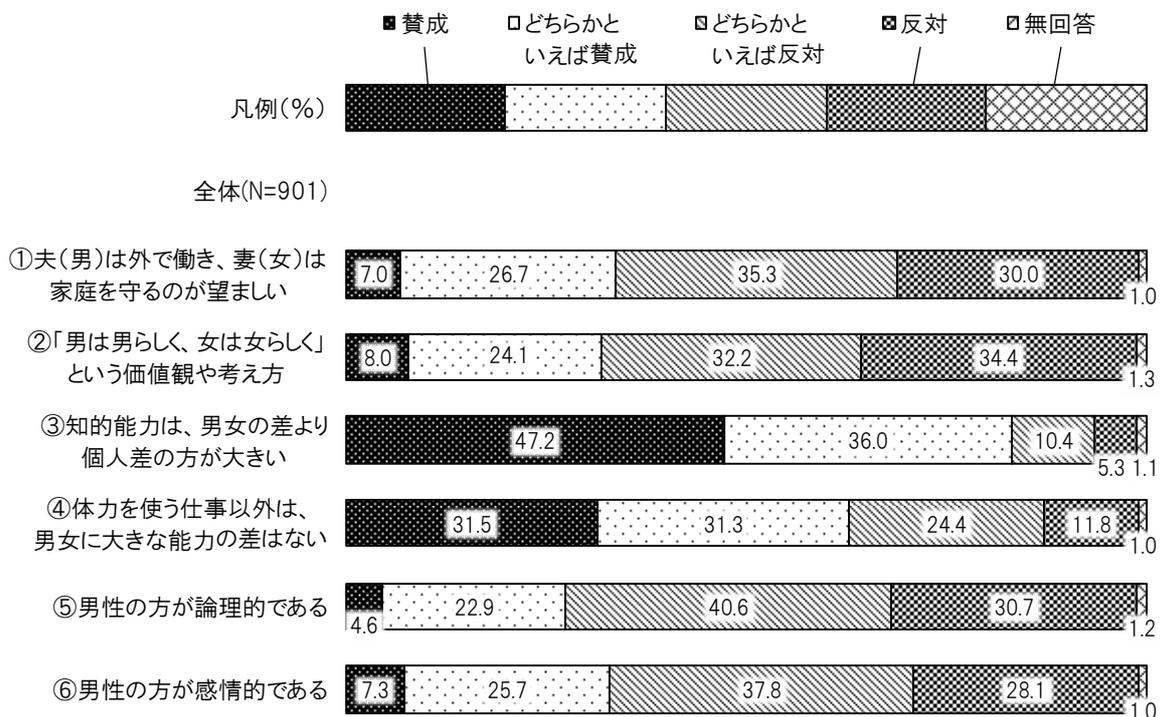


2 男女の性別差や役割分担等について

問5 あなたは、次の考え方について、どのように思いますか。(○印1つずつ)

男女の性別差や役割分担等については、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合計した『賛成意識』の割合が高い順に、「③知的能力は、男女の差より個人差の方が大きい」(83.2%)、「④体力を使う仕事以外は、男女に大きな能力の差はない」(62.8%)となっている。

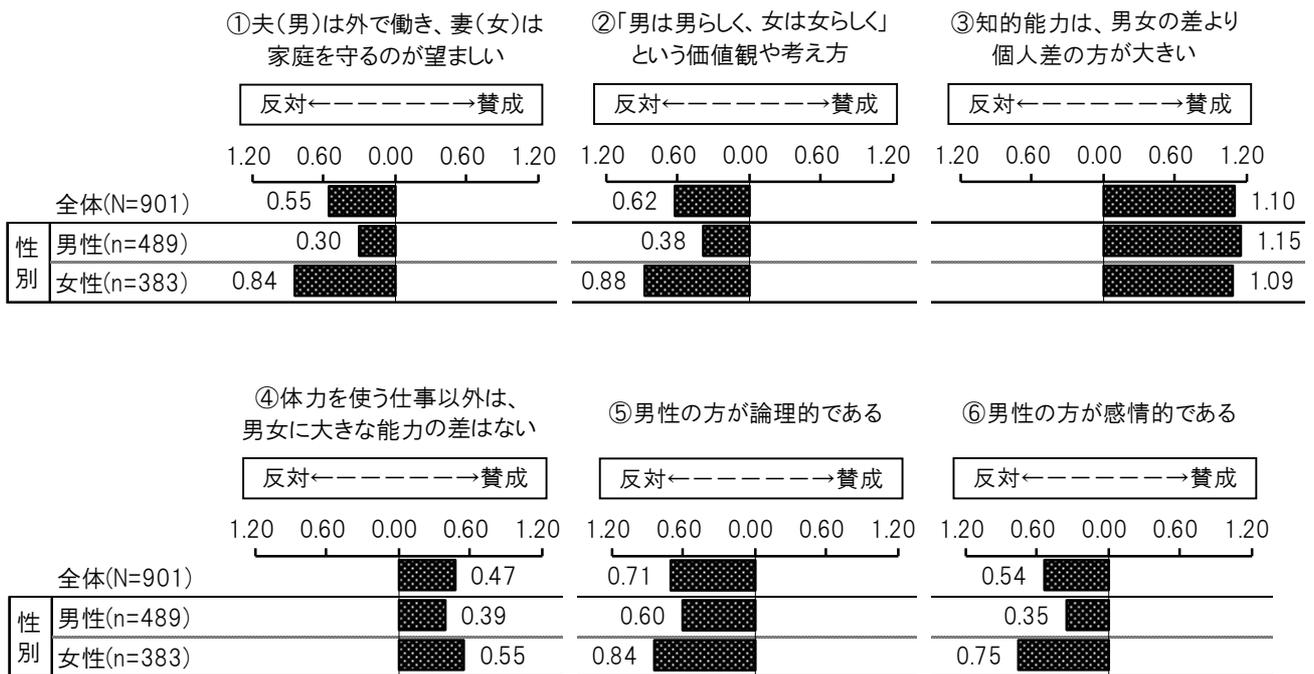
一方、「⑤男性の方が論理的である」については、『反対意識』(「反対」と「どちらかといえば反対」の合計)が71.3%と最も高くなっている。



平均評定値*による属性別傾向をみると、女性は「①夫（男）は外で働き、妻（女）は家庭を守るのが望ましい」「②男は男らしく、女は女らしくという価値観や考え方」「⑥男性の方が感情的である」で『反対意識』が男性を大きく上回っている。

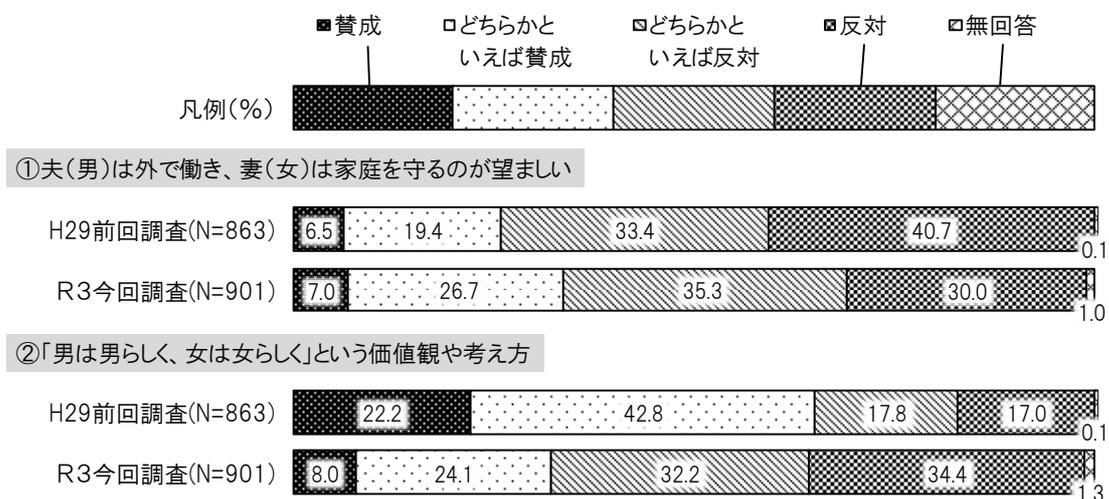
※平均評定値

平均評定値とは、「賛成」「反対」に2点、「どちらかといえば賛成」「どちらかといえば反対」に1点の係数を、それぞれの回答件数に乘じ、加重平均して算出した値で、グラフ上では左側が反対、右側が賛成を示す指標である。



【時系列推移】

前回調査結果と比べ、「①夫（男）は外で働き、妻（女）は家庭を守るのが望ましい」で「どちらかといえば賛成」が増加し、「②男は男らしく、女は女らしくという価値観や考え方」で「反対」が大きく増加した。



注1：②は前回調査では「女らしい振る舞い、男らしい振る舞いをした方がよい」となっている。

注2：前回調査結果については、下記のように読み替えて表記している。

「そう思う」→「賛成」

「どちらかといえばそう思う」→「どちらかといえば賛成」

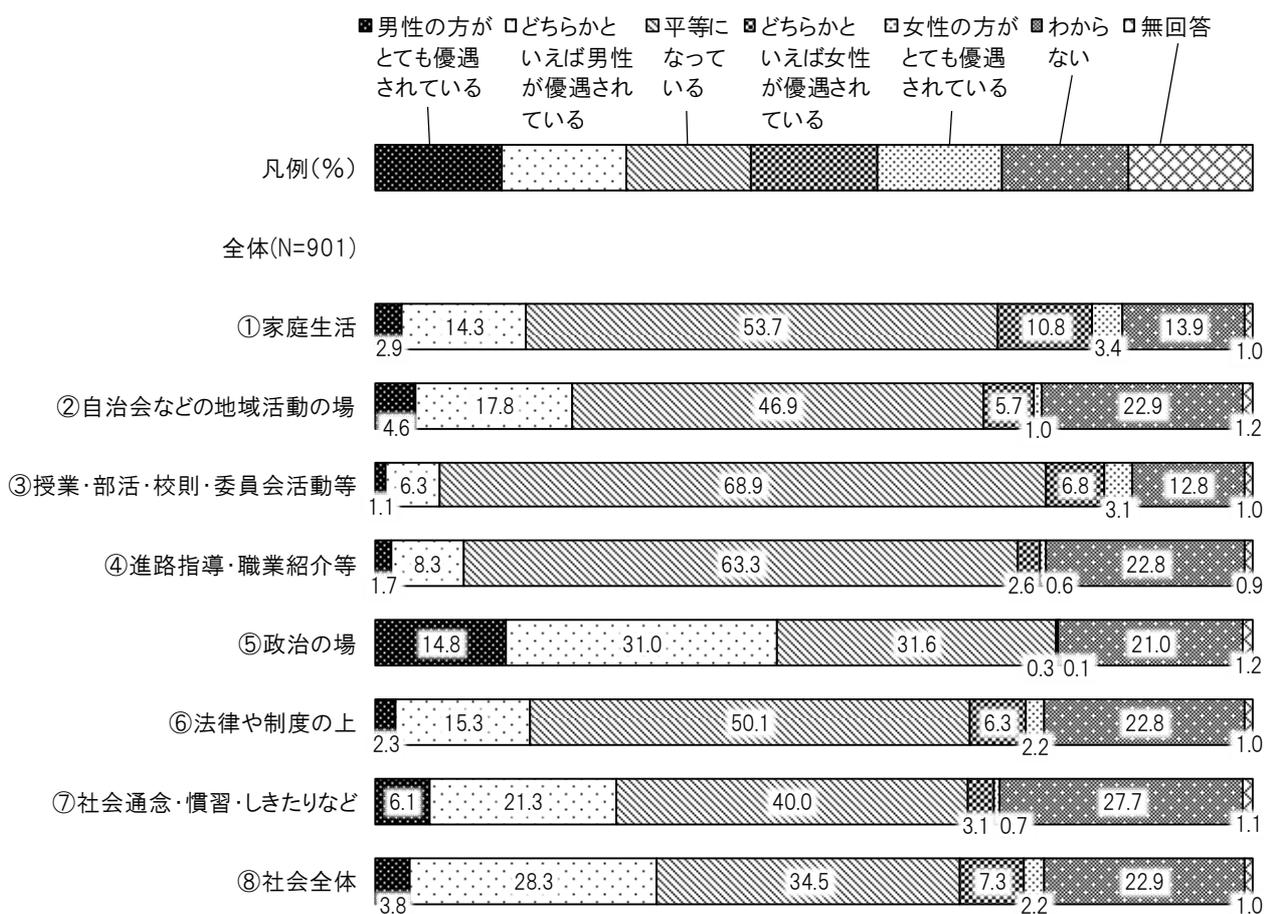
「どちらかといえばそう思わない」→「どちらかといえば反対」

「そう思わない」→「反対」

3 男女の平等意識

問6 あなたは、次の分野で、男女は平等になっていると思いますか。①から⑧までの項目について、それぞれお答えください。(○印1つずつ)

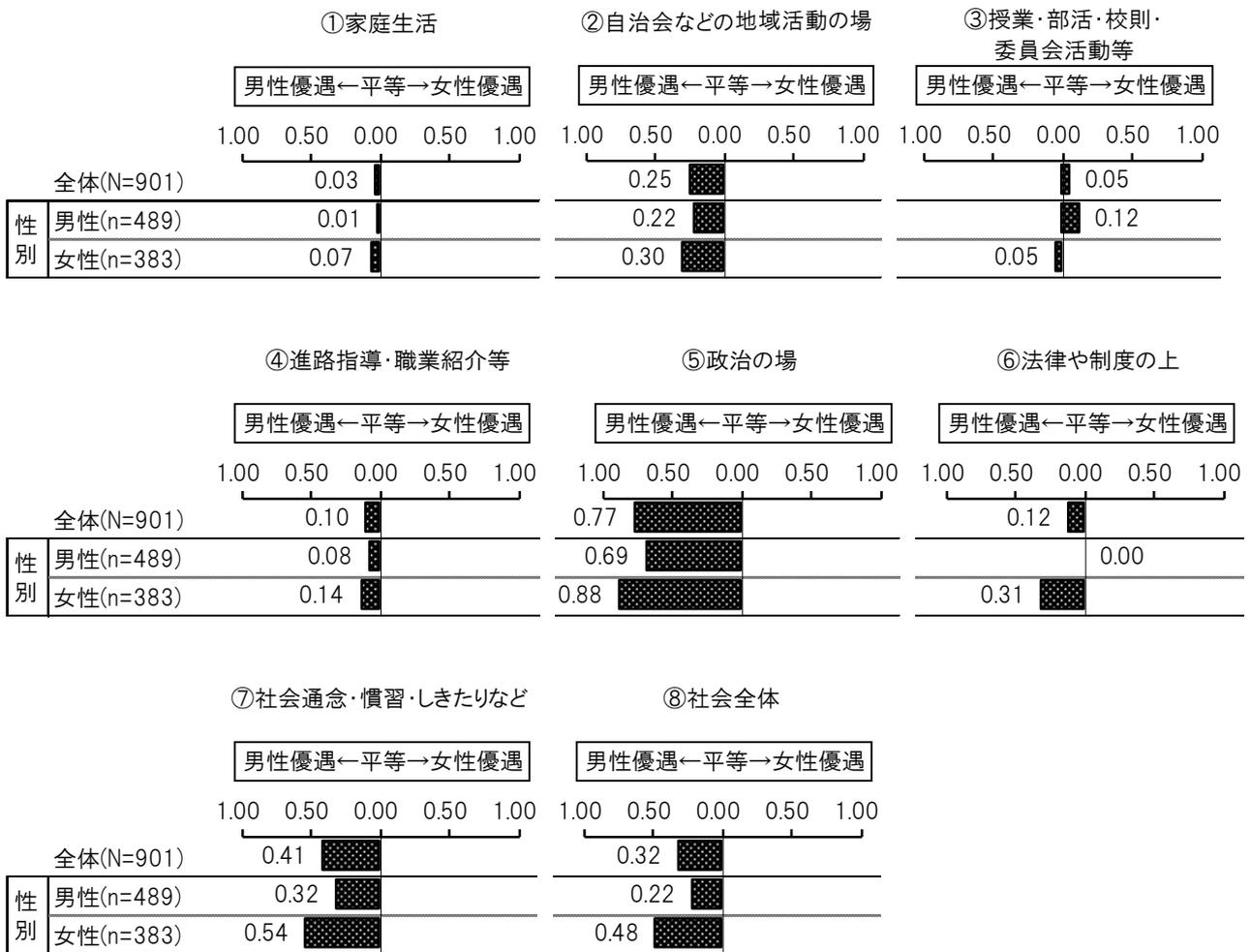
男女の平等意識については、「平等になっている」の割合が高い順に「③授業・部活・校則・委員会活動等」(68.9%)、「④進路指導・職業紹介等」(63.3%)となっている。
 また、『男性優遇』(「男性の方がとても優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計)の割合が高い順に、「⑤政治の場」(45.8%)、「⑧社会全体」(32.1%)、「⑦社会通念・慣習・しきたりなど」(27.4%)となっている。



平均評定値[※]による属性別傾向をみると、男性は「③授業・部活・校則・委員会活動等」で『女性優遇』意識が高く、女性は「⑤政治の場」「⑥法律や制度の上」「⑦社会通念・慣習・しきたりなど」「⑧社会全体」で『男性優遇』意識が高くなっている。

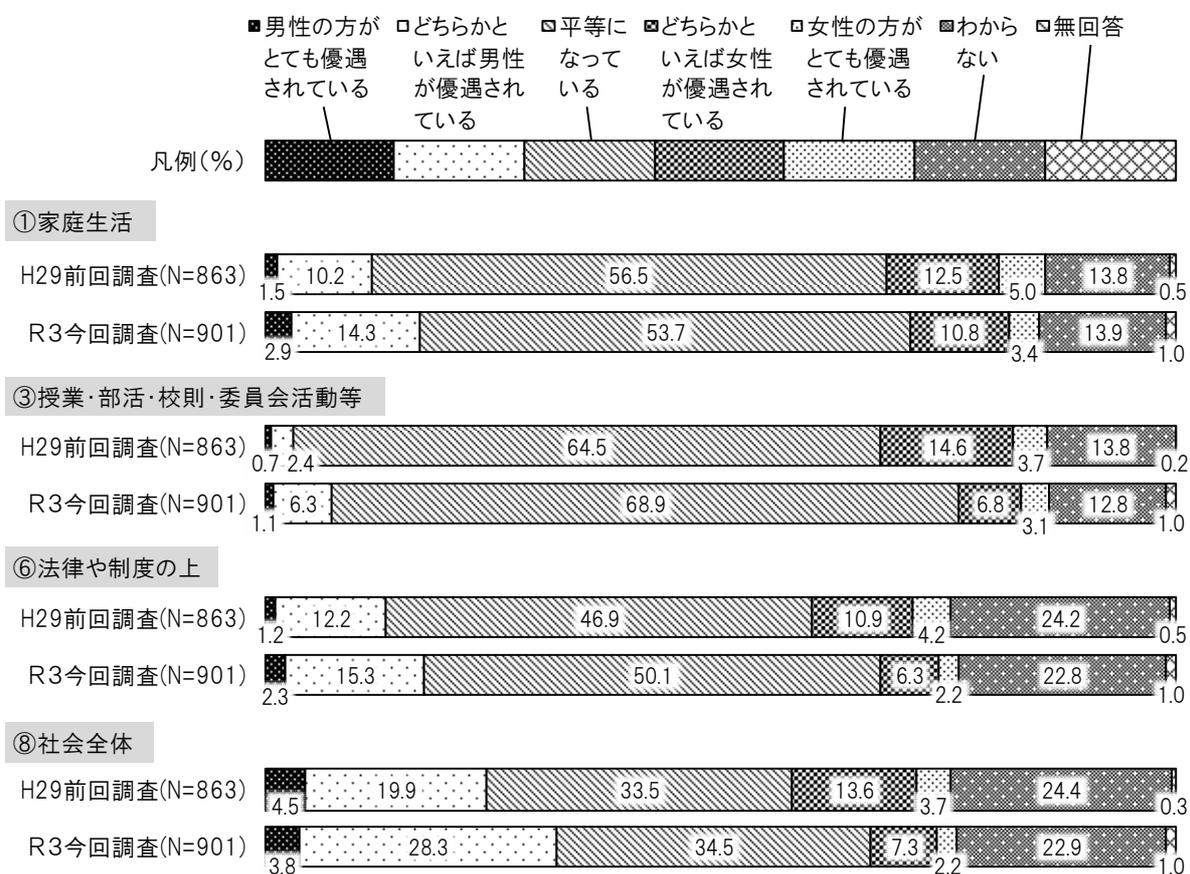
※平均評定値

平均評定値とは、男性、女性それぞれについて「とても優遇されている」に2点、「どちらかといえば優遇されている」に1点、「平等になっている」に0点の係数を、それぞれの回答件数に乘じ加重平均して算出した値で、グラフ上では左側が男性優遇、右側が女性優遇、中央に近いほど平等を示す指標である。



【時系列推移】

前回調査結果と比べ、「③授業・部活・校則・委員会活動等」で「どちらかといえば女性が優遇されている」が減少し、「⑧社会全体」で「どちらかといえば男性が優遇されている」が増加した。



注1: ◎は前回調査では「学校生活」となっている。

注2: 前回調査結果については、下記のように読み替えて表記している。

「男性の方が優遇されている」→「男性の方がとても優遇されている」

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」→「どちらかといえば男性が優遇されている」

「男女平等である」→「平等になっている」

「どちらかといえば女性の方が優遇されている」→「どちらかといえば女性が優遇されている」

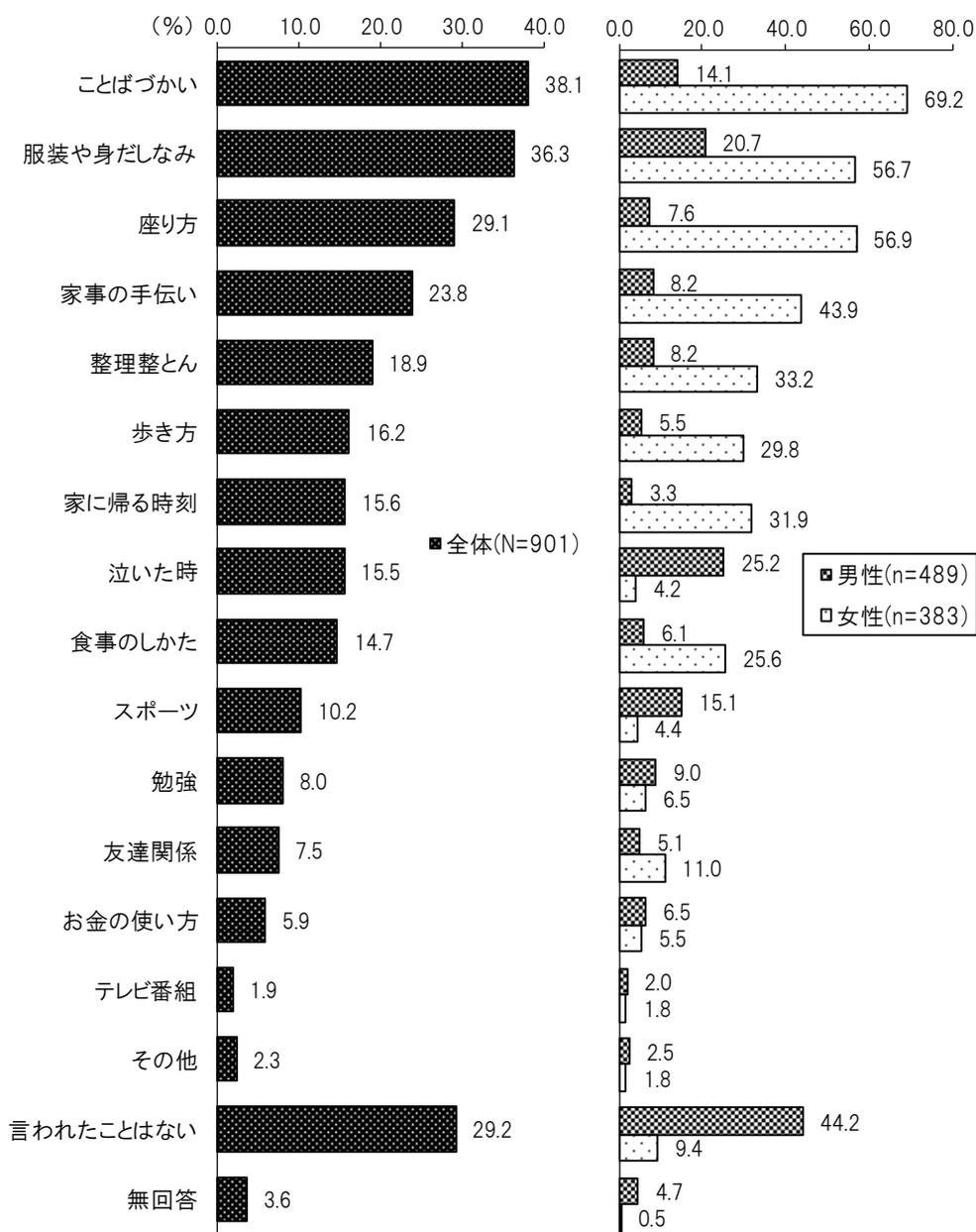
「女性の方が優遇されている」→「女性の方がとても優遇されている」

4 性別を意識した周囲からの発言

問7 あなたは、次のようなことで、まわりの人から「男だから○○しなさい」や「女だから○○しなさい」と言われたことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

性別を意識した周囲からの発言については、「ことばづかい」の割合が38.1%と最も高く、次いで「服装や身だしなみ」（36.3%）、「座り方」（29.1%）、「家事の手伝い」（23.8%）、「整理整とん」（18.9%）の順となっている。一方、約3割（29.2%）は「言われたことはない」と回答している。

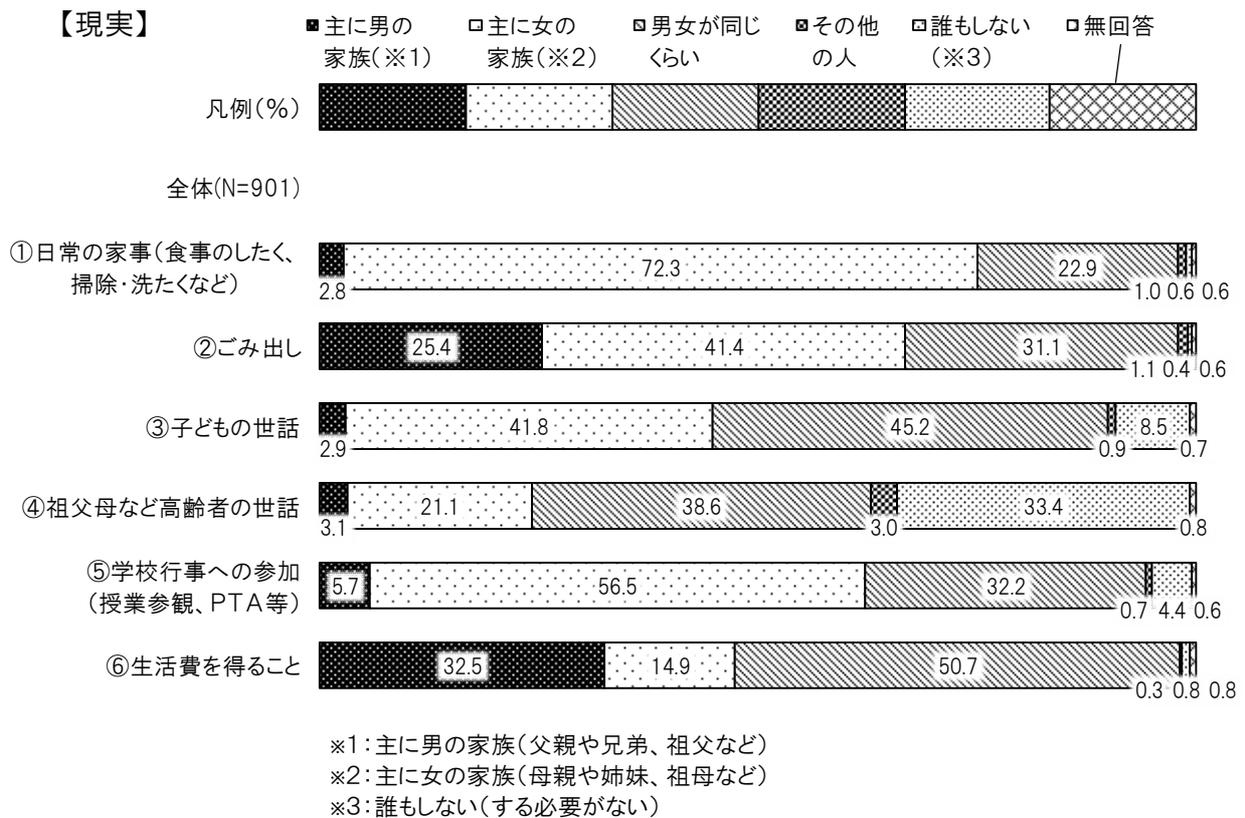
性別では、男性は女性に比べ「泣いた時」「スポーツ」「言われたことはない」の割合が高く、女性は「ことばづかい」「服装や身だしなみ」「座り方」「家事の手伝い」など男性を大きく上回る項目が多岐にわたっている。



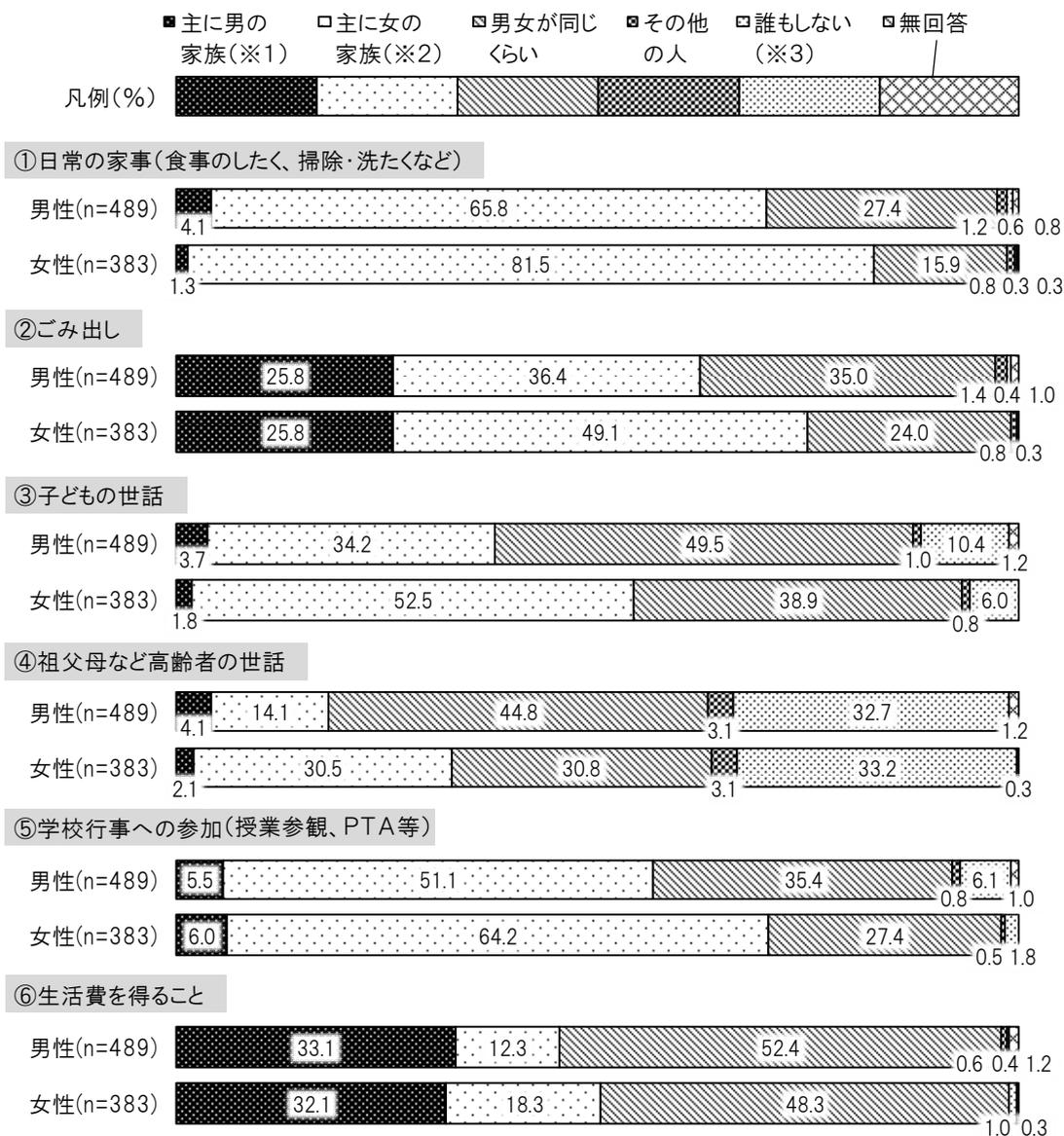
5 家庭内での役割分担

問8 あなたの家庭では、次の①から⑥までの項目を、誰が行っていますか。最もよく行っている人をお答えください。(○印1つずつ)

家庭内での役割分担については、「①日常の家事(食事のしたく、掃除・洗たくなど)」「⑤学校行事への参加(授業参観、PTA等)」では「主に女の家族(母親や姉妹、祖母など)」が高い割合を占めている。一方、「②ごみ出し」「⑥生活費を得ること」では「主に男の家族(父親や兄弟、祖父など)」の割合が高くなっている。



全ての項目において、男性は女性に比べ「男女が同じくらい」の割合が高くなっているが、女性は「主に女の家族（母親や姉妹、祖母など）」の割合が男性を大きく上回っている。



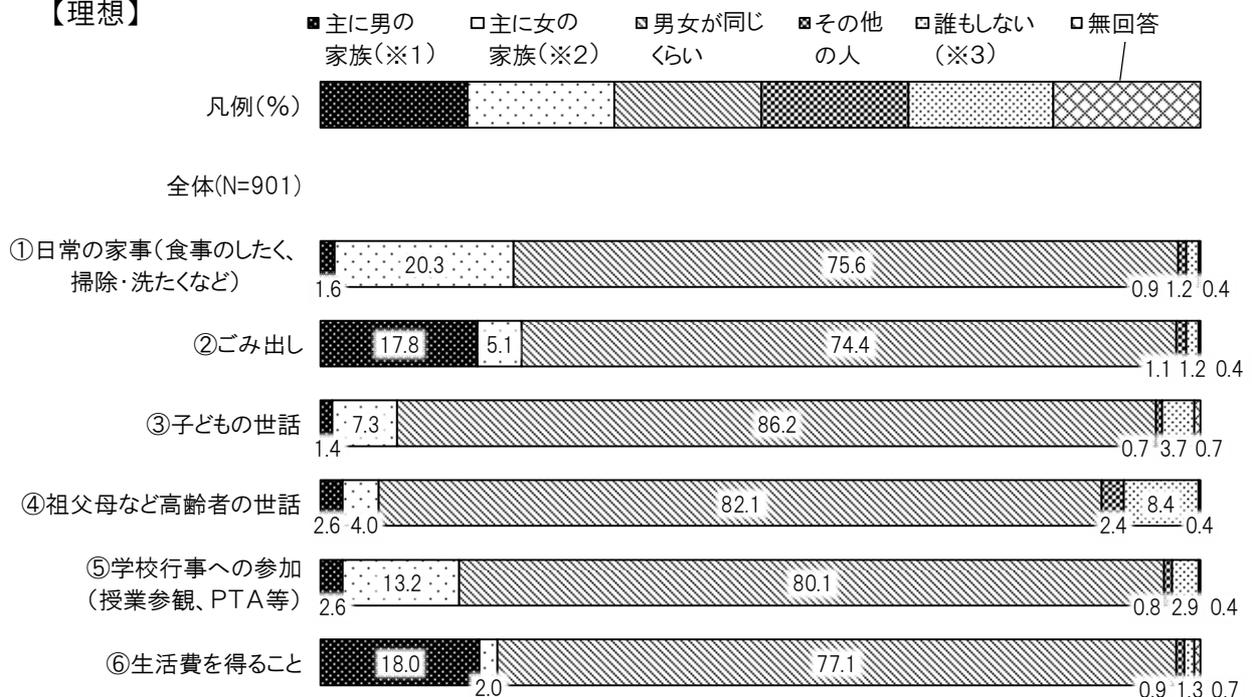
※1: 主に男の家族(父親や兄弟、祖父など)
 ※2: 主に女の家族(母親や姉妹、祖母など)
 ※3: 誰もしない(する必要がない)

6 理想的な家庭内での役割分担

問9 あなたは、次の①から⑥までの項目について、主に誰が行うことが理想だと思いますか。（○印1つずつ）

理想的な家庭内での役割分担については、いずれの項目も「男女が同じくらい」が7割以上を占めている。また、「主に女の家族（母親や姉妹、祖母など）」の割合が高いものとして「①日常の家事（食事のしたく、掃除・洗たくなど）」（20.3%）、「⑤学校行事への参加（授業参観、PTA等）」（13.2%）があげられ、「主に男の家族（父親や兄弟、祖父など）」の割合が高いものとして「②ごみ出し」（17.8%）、「⑥生活費を得ること」（18.0%）があげられる。

【理想】

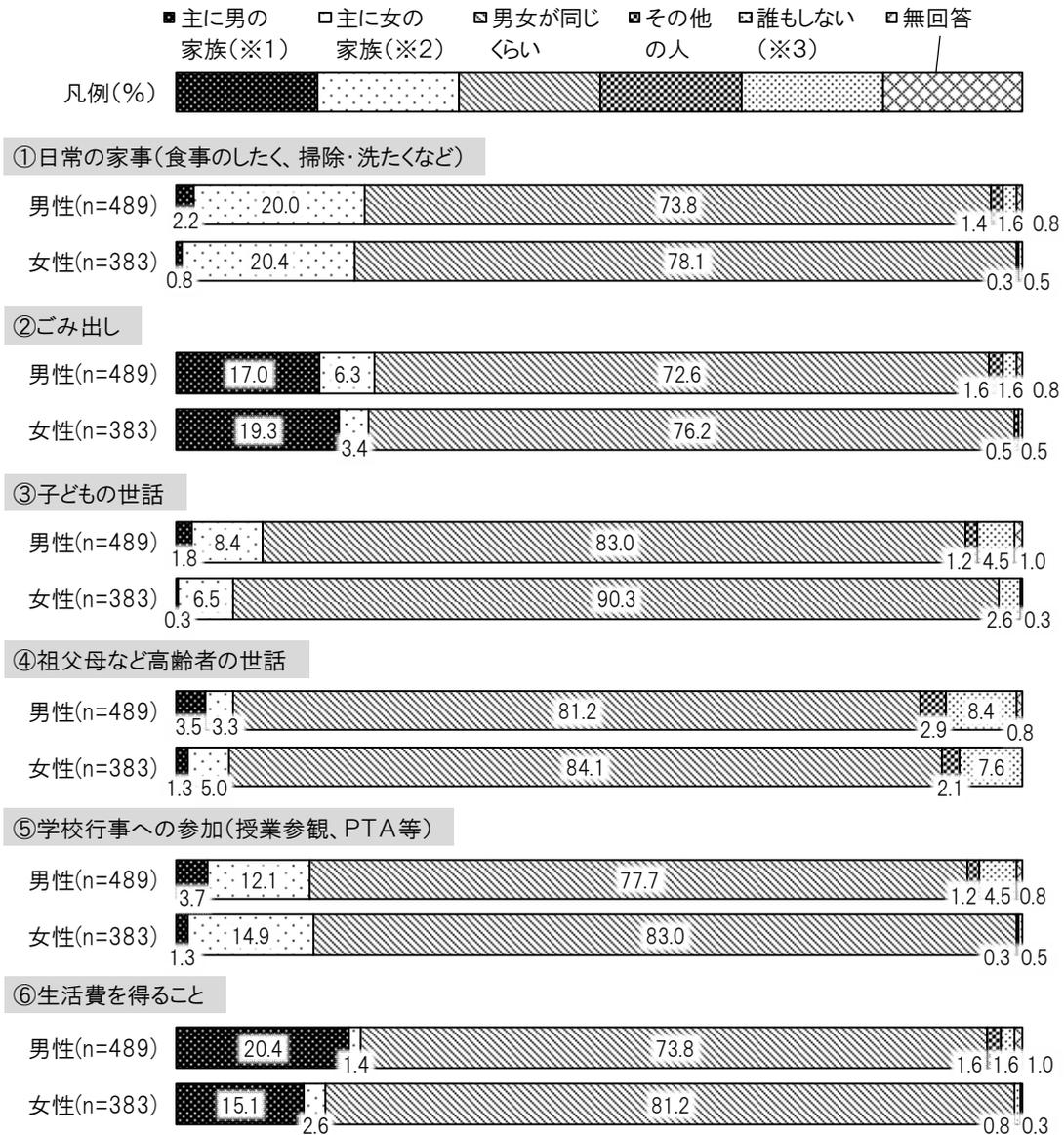


※1: 主に男の家族(父親や兄弟、祖父など)

※2: 主に女の家族(母親や姉妹、祖母など)

※3: 誰もしない(する必要がない)

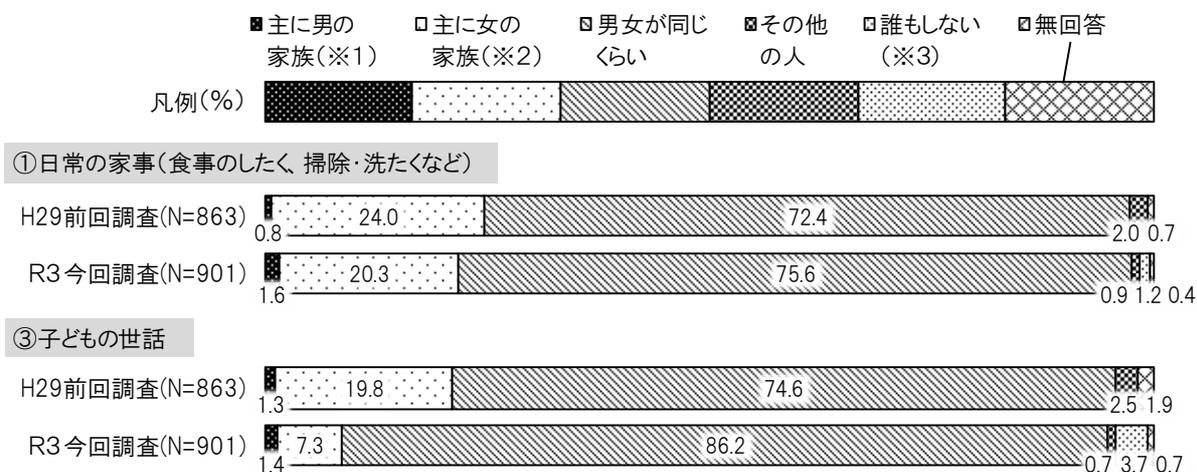
性別では、男性は女性に比べ「⑥生活費を得ること」で「主に男の家族（父親や兄弟、祖父など）」の割合が高く、女性は「③子どもの世話」「⑤学校行事への参加（授業参観、PTA等）」、「⑥生活費を得ること」で「男女が同じくらい」の割合が男性を上回っている。



※1: 主に男の家族(父親や兄弟、祖父など)
 ※2: 主に女の家族(母親や姉妹、祖母など)
 ※3: 誰もしない(する必要がない)

【時系列推移】

前回調査結果と比べ、「③子どもの世話」で「主に女の家族（母親や姉妹、祖母など）」が大きく減少し、「男女が同じくらい」が大きく増加した。



※1：主に男の家族(父親や兄弟、祖父など)

※2：主に女の家族(母親や姉妹、祖母など)

※3：誰もしない(する必要がない)

注1：前回調査では「誰もしない(する必要がない)」の選択肢はない。

注2：前回調査結果については、下記のように読み替えて表記している。

「主として夫」→「主に男の家族(父親や兄弟、祖父など)」

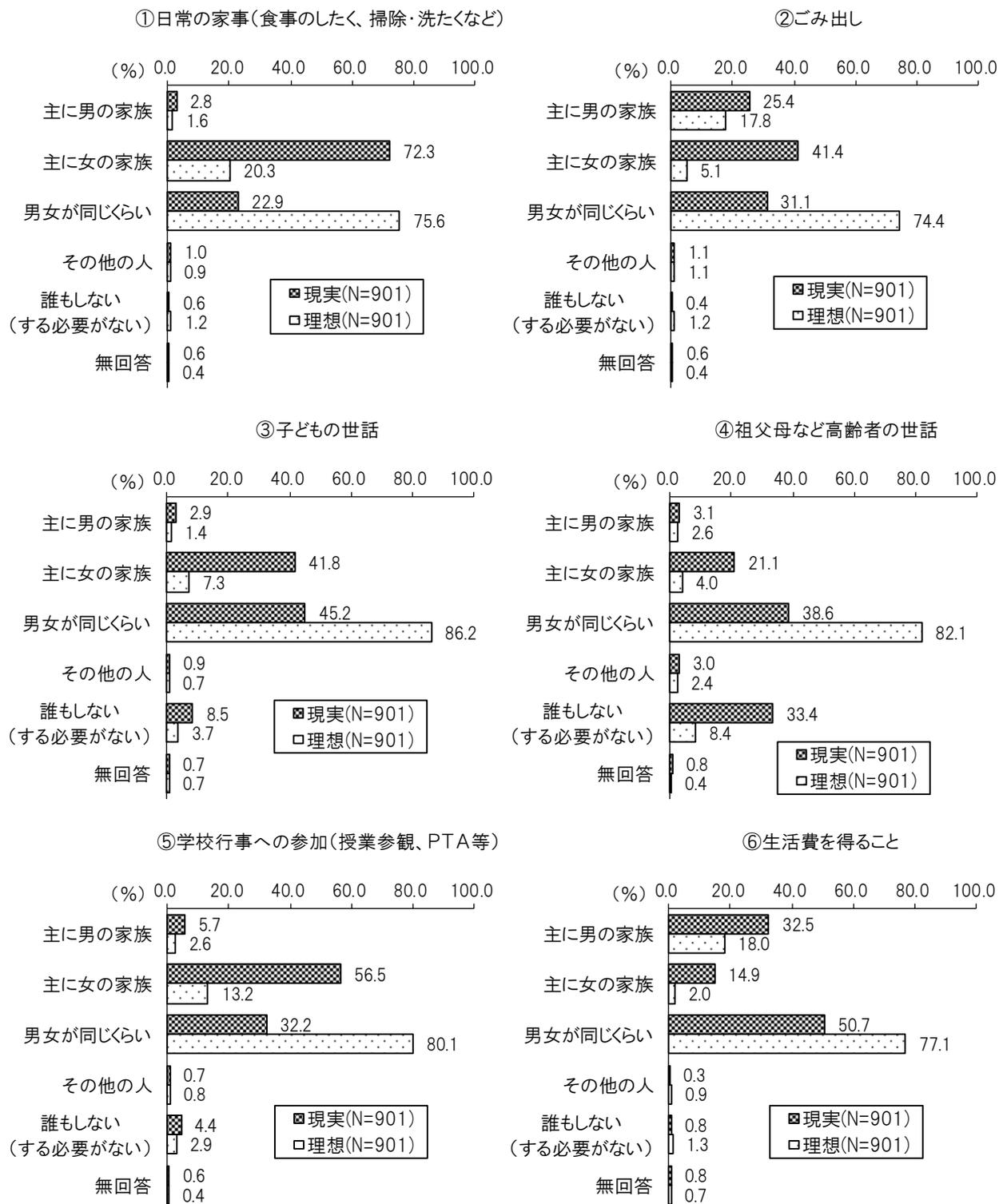
「主として妻」→「主に女の家族(母親や姉妹、祖母など)」

「夫と妻で分担」→「男女が同じくらい」

「夫と妻以外の家族」「外部サービスを利用」「その他」→「その他の人」

【再掲／現実（問8）と理想（問9）の比較】

現実と理想の分担を比較すると、特に「①日常の家事（食事のしたく、掃除・洗たくなど）」「③子どもの世話」「⑤学校行事への参加（授業参観、PTA等）」などでは、理想として「男女が同じくらい」の割合が高いが、現実には「主に女の家族（母親や姉妹、祖母など）」の割合が高くなっている。

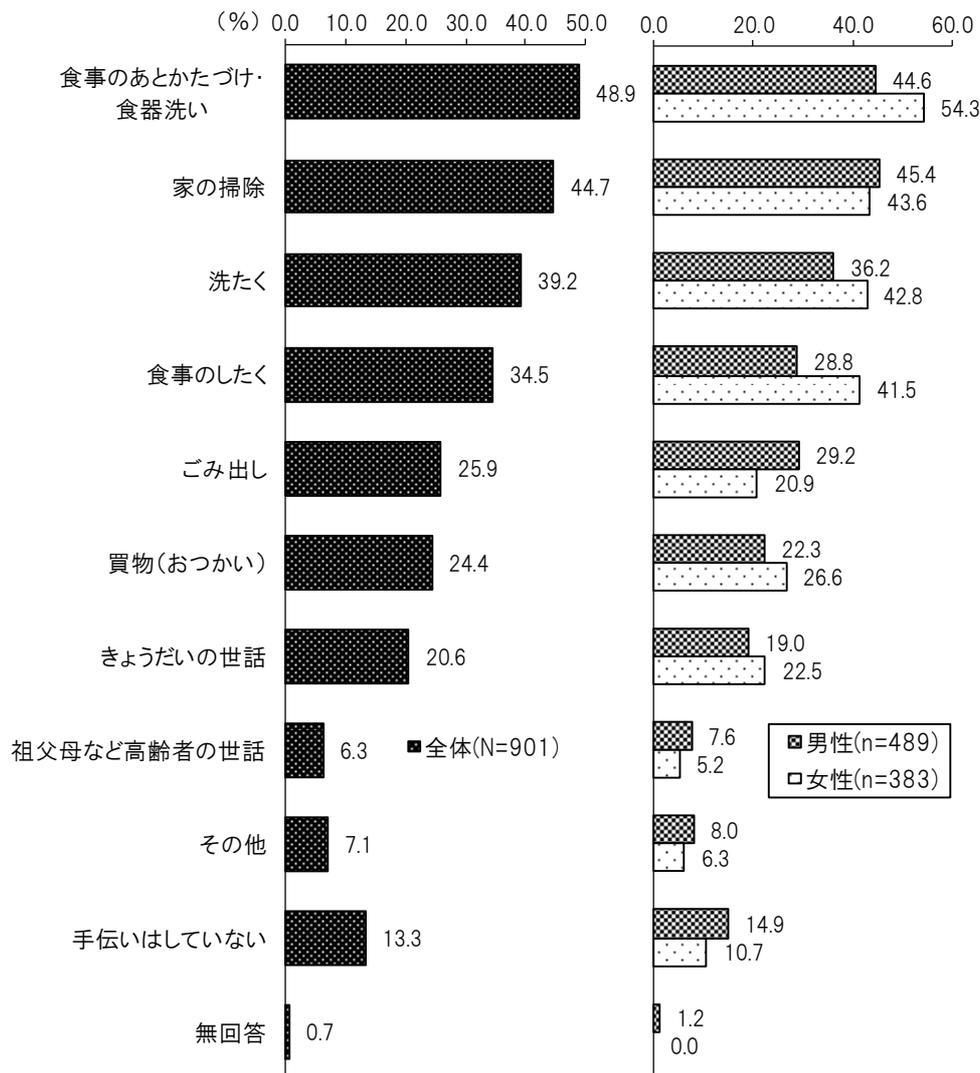


7 家での手伝い

問 10 あなたは、家の手伝いをしていますか。（あてはまるものすべてに○）

家での手伝いについては、「食事のあとかたづけ・食器洗い」の割合が48.9%と最も高く、次いで「家の掃除」（44.7%）、「洗たく」（39.2%）、「食事のしたく」（34.5%）、「ごみ出し」（25.9%）の順となっている。一方、「手伝いはしていない」は13.3%となっている。

性別では、男性は女性に比べ「ごみ出し」の割合が高く、女性は「食事のあとかたづけ・食器洗い」「食事のしたく」の割合が男性を大きく上回っている。

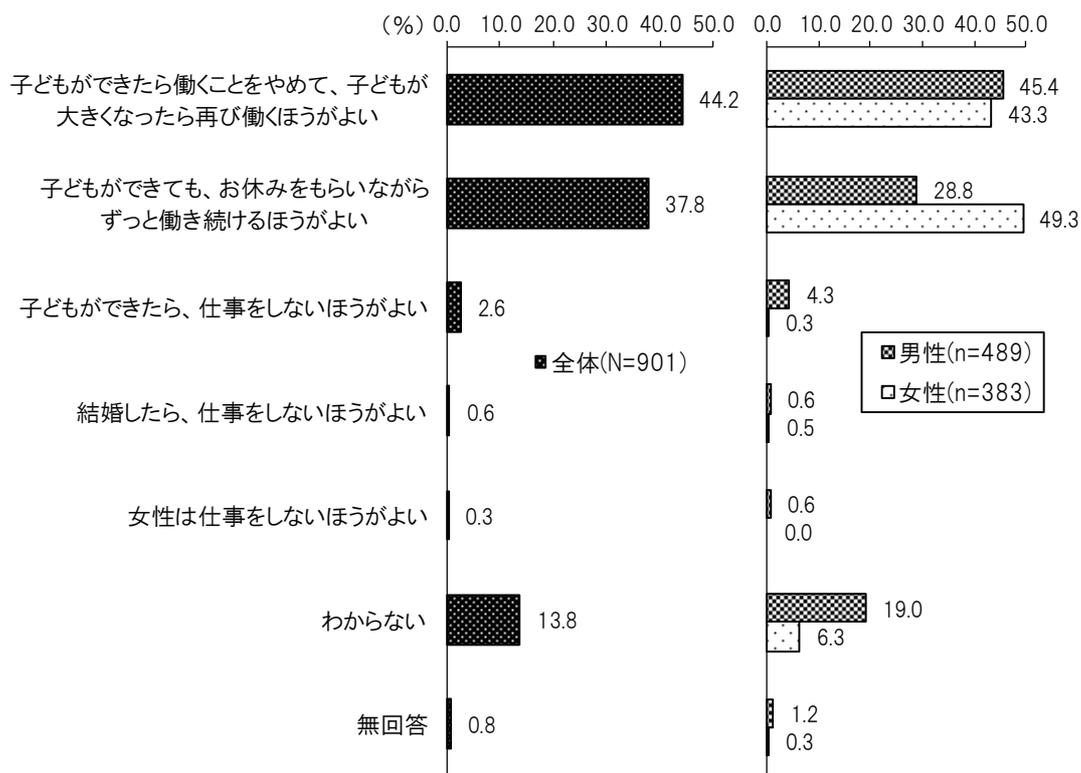


8 望ましい女性の働き方

問 11 働いている女性は、結婚や妊娠、出産などを機に仕事をやめる人が多い現状があります。あなたは、どのような女性の働き方が望ましいと思いますか。(○印1つ)

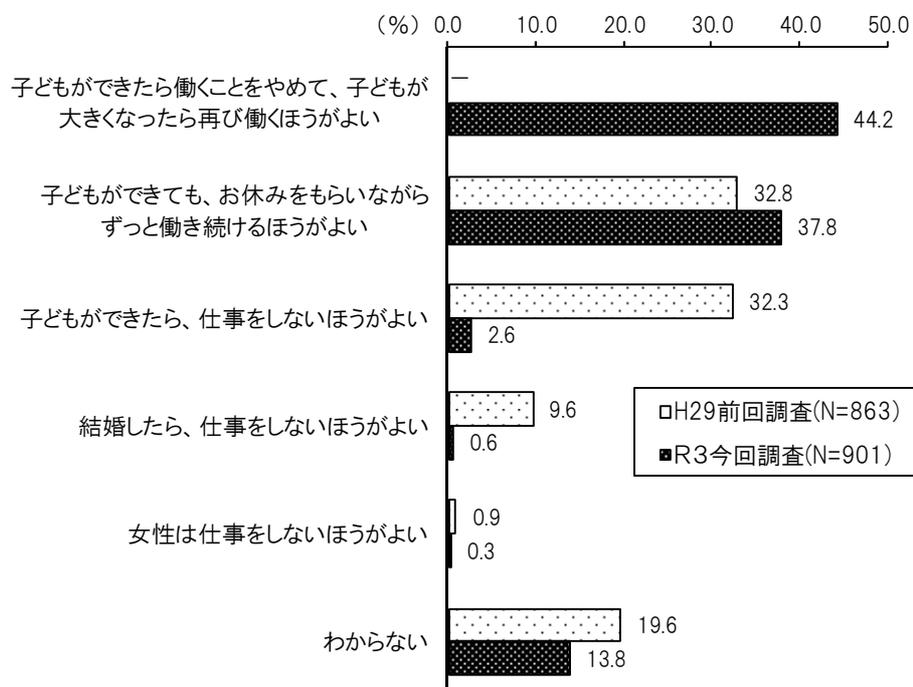
望ましい女性の働き方については、「子どもができたなら働くことをやめて、子どもが大きくなったら再び働くほうがよい」の割合が44.2%と最も高く、次いで「子どもができて、お休みをもらいながらずっと働き続けるほうがよい」が37.8%で続いている。

性別では、男性は女性に比べ「わからない」の割合が高く、女性は「子どもができて、お休みをもらいながらずっと働き続けるほうがよい」の割合が男性を大きく上回っている。



【時系列推移】

前回調査と選択肢が異なるため単純な比較はできないが、今回調査では「子どもができたら、仕事をしないほうがよい」が大きく減少している。



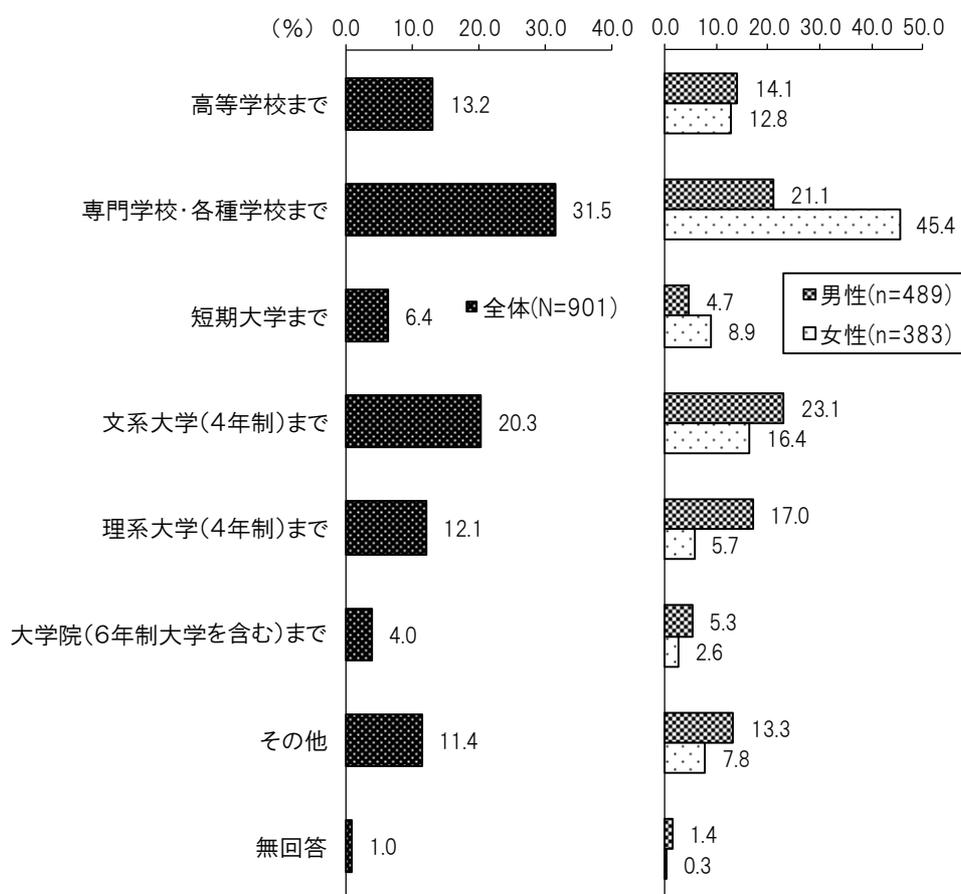
注：前回調査では「子どもができたら働くことをやめて、子どもが大きくなったら再び働くほうがよい」の選択肢はない。

9 希望する進路

問 12 あなたの希望する進路は次のうちどれですか。(○印1つ)

希望する進路については、「専門学校・各種学校まで」の割合が31.5%と最も高く、次いで「文系大学(4年制)まで」(20.3%)、「高等学校まで」(13.2%)、「理系大学(4年制)まで」(12.1%)の順となっている。また「その他」では、「決めていない」「就職」などの回答がみられた。

性別では、男性は女性に比べ「文系大学(4年制)まで」「理系大学(4年制)まで」の割合が高く、女性は「専門学校・各種学校まで」の割合が男性を大きく上回っている。

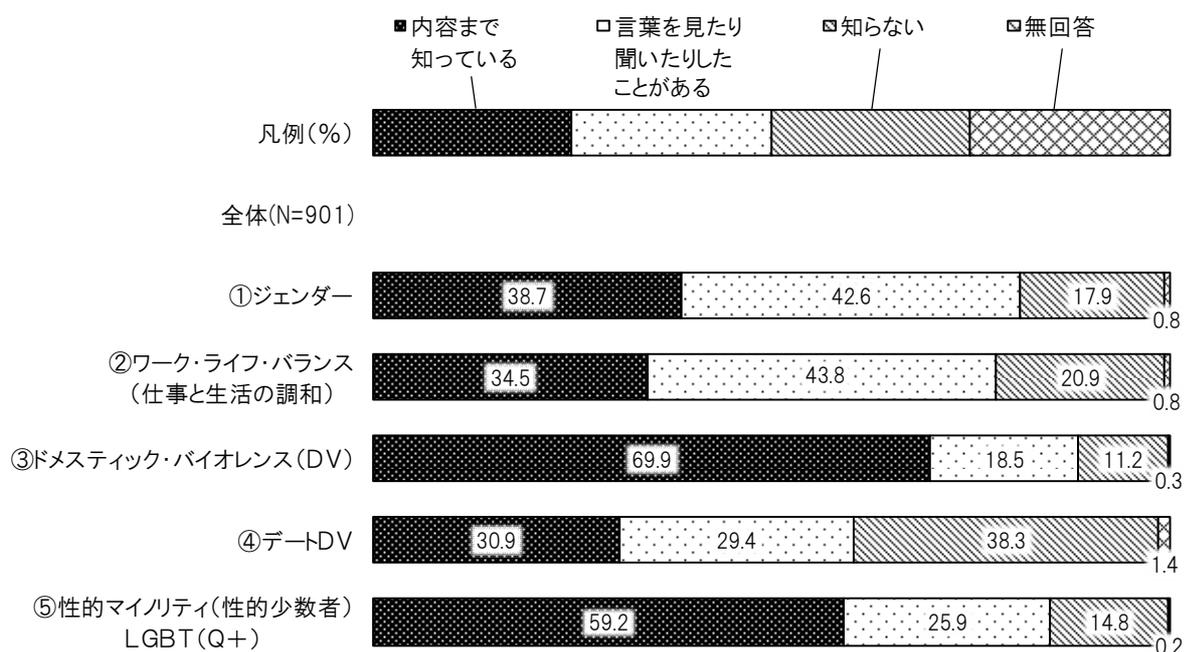


10 用語の認知状況

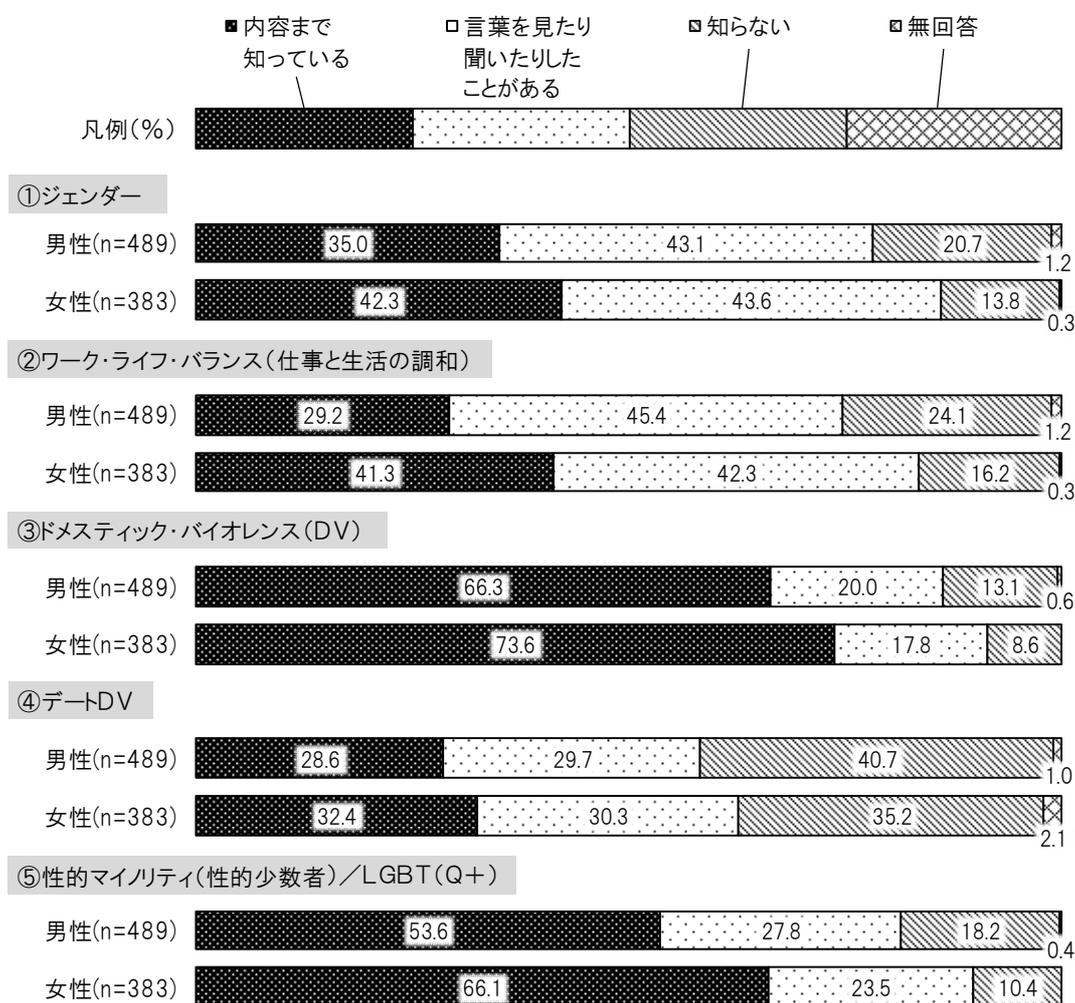
問 13 あなたは、次の言葉の意味を知っていますか。(○印1つずつ)

用語の認知状況については、「内容まで知っている」の割合が高い順に「③ドメスティック・バイオレンス(DV)」(69.9%)、「⑤性的マイノリティ(性的少数者)／LGBT(Q+)」(59.2%)となっている。

一方、「知らない」の割合が高い順に「④デートDV」(38.3%)、「②ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」(20.9%)、「①ジェンダー」(17.9%)となっている。

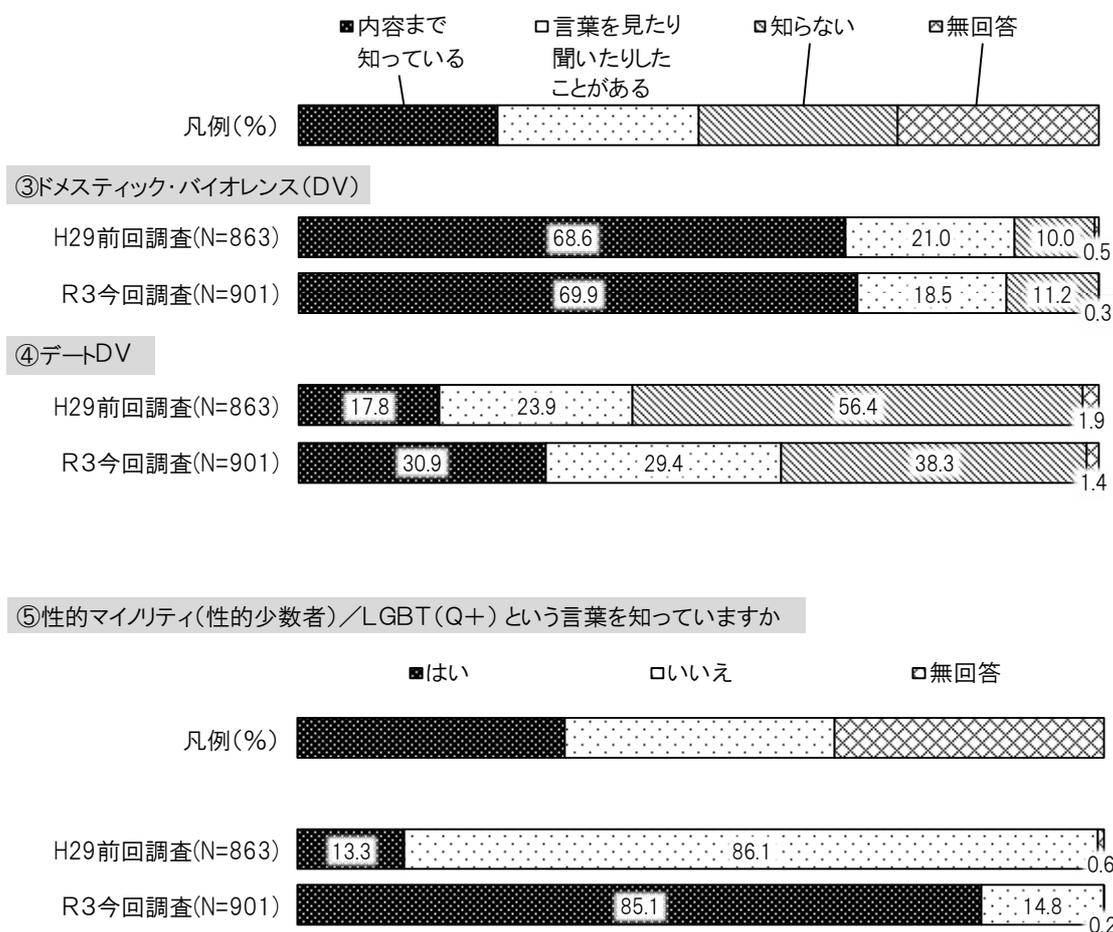


全ての用語において、女性は「内容まで知っている」の割合が男性を上回っており、特に「②ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」「⑤性的マイノリティ（性的少数者）／LGBT（Q+）」で男性を大きく上回っている。



【時系列推移】

前回調査結果と比べ、④デートDVで「内容まで知っている」が大きく増加した。また、⑤性的マイノリティ（性的少数者）／LGBT（Q+）については、言葉を知っている人が大きく増加した。



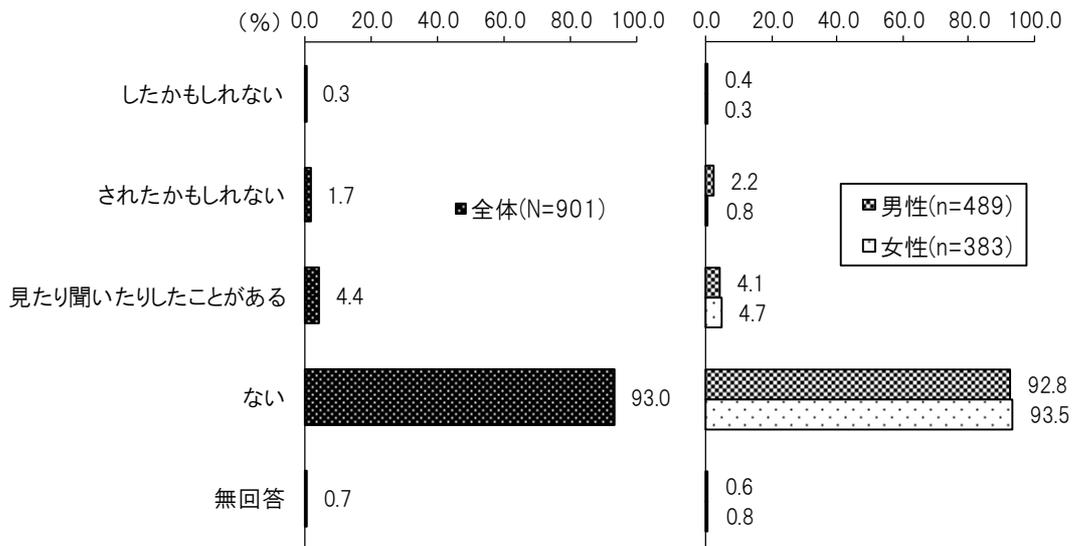
注:⑤性的マイノリティ(性的少数者)／LGBT(Q+)については、前回調査と比較するため、選択肢を前回に合わせて表記している。

11 暴力等を受けた経験

問 14 あなたは、恋人などから、次の①から④までの項目について、したり、されたり、自分のまわりで見たり聞いたりしたことがありますか。
(それぞれあてはまるものすべてに○)

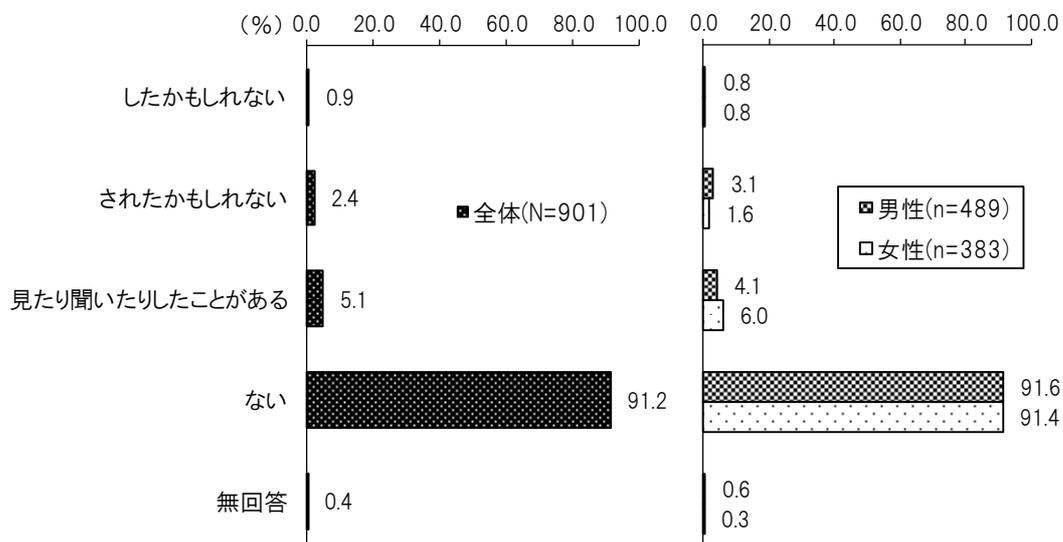
①殴る、けるなどの身体的暴力

殴る、けるなどの身体的暴力については、「したかもしれない」が 0.3%、「されたかもしれない」が 1.7%、「見たり聞いたりしたことがある」が 4.4%となっている。
性別では、大きな差はみられない。



②大声でどなる、無視するなどの精神的暴力

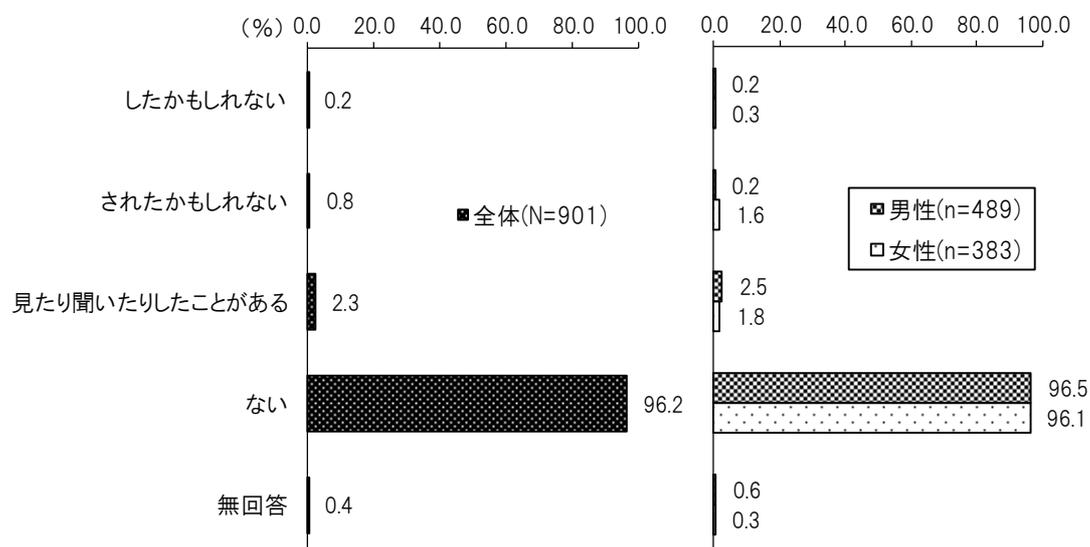
大声でどなる、無視するなどの精神的暴力については、「したかもしれない」が 0.9%、「されたかもしれない」が 2.4%、「見たり聞いたりしたことがある」が 5.1%となっている。
性別では、大きな差はみられない。



③性行為を強要するなどの性的暴力

性行為を強要するなどの性的暴力については、「したかもしれない」が0.2%、「されたかもしれない」が0.8%、「見たり聞いたりしたことがある」が2.3%となっている。

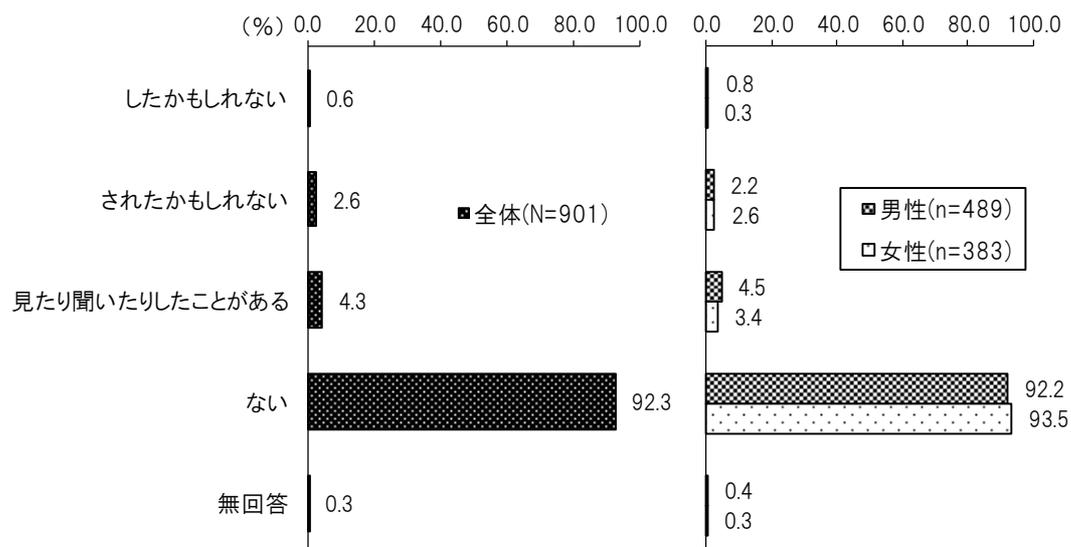
性別では、大きな差はみられない。



④勝手にメールなどを見る、人との付き合いを制限するなどの社会的隔離

勝手にメールなどを見る、人との付き合いを制限するなどの社会的隔離については、「したかもしれない」が0.6%、「されたかもしれない」が2.6%、「見たり聞いたりしたことがある」が4.3%となっている。

性別では、大きな差はみられない。

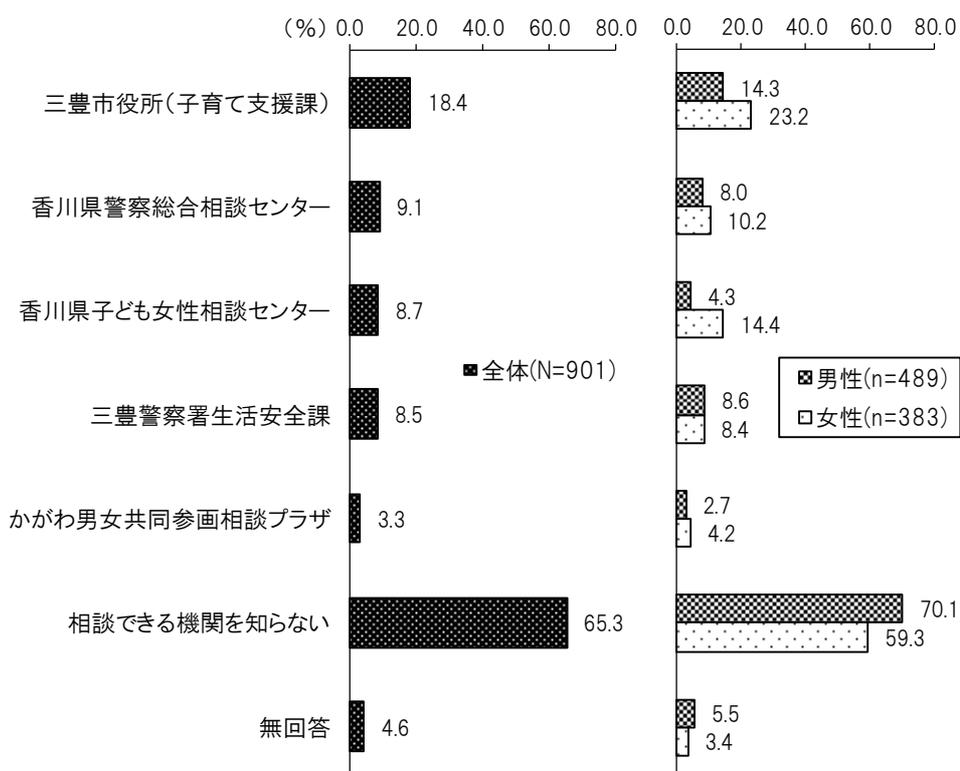


12 DVに関する相談機関の認知状況

問 15 あなたは、DVの相談機関を知っていますか。(あてはまるものすべてに○)

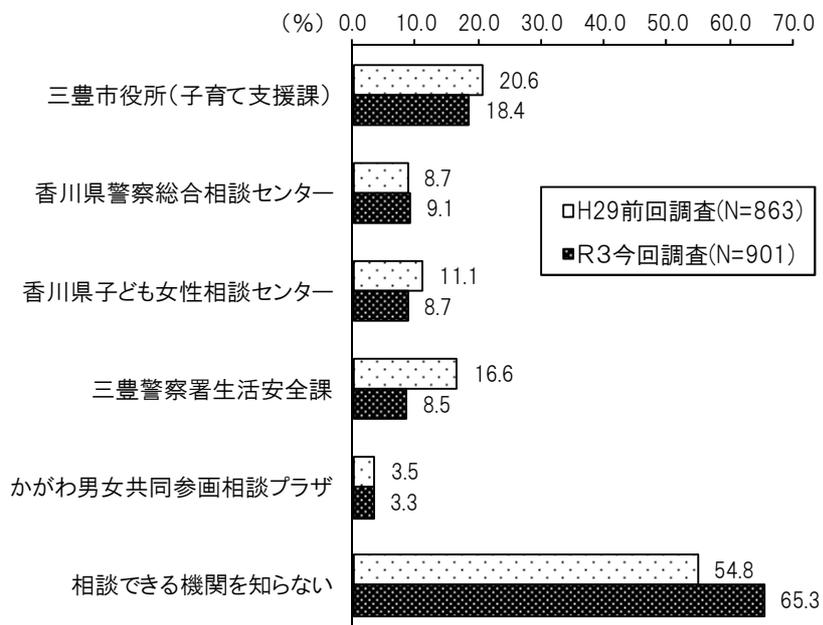
DVに関する相談機関の認知状況については、「三豊市役所(子育て支援課)」の割合が18.4%と最も高く、次いで「香川県警察総合相談センター」(9.1%)、「香川県子ども女性相談センター」(8.7%)、「三豊警察署生活安全課」(8.5%)の順となっている。一方、6割以上(65.3%)が「相談できる機関を知らない」と回答している。

性別では、男性は「相談できる機関を知らない」の割合が女性を大きく上回っており、女性は男性に比べ「三豊市役所(子育て支援課)」「香川県子ども女性相談センター」の割合が高くなっている。



【時系列推移】

前回調査結果と比べ、「三豊警察署生活安全課」が減少し、「相談できる機関を知らない」が大きく増加した。

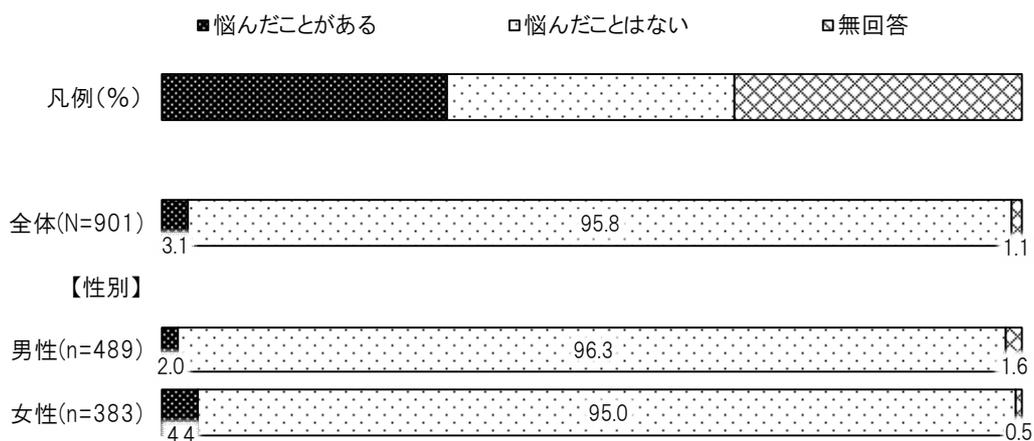


13 性に関する悩みの有無

問 16 あなたは今までに自分の身体の性、心の性又は恋愛対象の性などで悩んだことがありますか。(○印1つ)

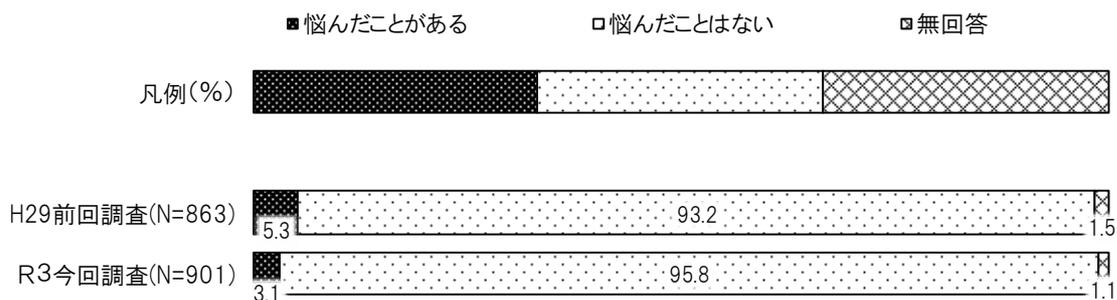
性に関する悩みの有無については、「悩んだことがある」が3.1%、「悩んだことはない」が95.8%となっている。

性別では、大きな差はみられない。



【時系列推移】

前回調査結果と比べ、大きな変化はみられない。



**三豊市 男女の働き方や生活についての高校生アンケート調査
報告書**

発 行 / 令和4年3月
発 行 者 / 三豊市 市民環境部 人権課
〒767-8585 香川県三豊市高瀬町下勝間 2373 番地 1
電 話 (0875) 73-3008
FAX (0875) 73-3020
